

2020
Vol.33

ikeeda

“住む人が主役の家づくり”に、もっとファンを！



We Love Natural Life!

株式会社 彩

福岡県みやま市



福岡県みやま市に拠点を構える設計施工会社「株式会社彩(いろどり)」は、地域に根差し確実に業績を上げている地場の工務店だ。今回はその彩が手掛けた、イケダコーポレーションの新ブランド、ドイツ製木繊維断熱材「STEICO(シュタイコ)」の他フルスペックを採用した物件と、隣接する2棟の物件を施主インタビューを交えながら紹介。

また、後半の同社代表のインタビューでは建築への思いや技術的な強み、「パッシブデザイン」を取り入れ始めたターニングポイントを、関連物件を交えながら紹介する。

いずれの住宅も断熱やエネルギー効率といった機能性、自然素材による仕上げ、施主のライフスタイルに寄り添うデザインが調和している。同社の住宅は、住み心地に関する施主の喜びの声が多く、それによって施主から施主への紹介や、SNSを見た施主自らがコンタクトを取るなど、施工された物件への反響が次の顧客を生み出していることが大きな特徴となっている。

大手ハウスメーカーと強豪しながらも、顧客はなぜ彩を選ぶのか。彩の背景や見据える狙いのなかで、その答えを浮き彫りにしてみたい。



A様邸



B様邸



C様邸



外光が差し込みリビングダイニングキッチン。内装壁には「スイス漆喰 カルクファサード」の他、木繊維断熱材「シュタイコ フレックス」など、断熱や調湿機能がある素材が施されている。



最大のストレスとなる“寒暖差”

この春に竣工したばかりのA邸は、2世帯の6人が住まう2階建て、延べ約48坪の住宅。デッキテラスやバルコニーを設けた開口部、約20帖のリビングダイニングキッチンなど明るく開放的な空間が広がる。施主のAさんは、50歳を過ぎたことを契機に築40年の住宅の建て替えを決心したという。

「以前の住まいは、夏は暑く、冬はとても冷える空間で、家族みんながもっと快適に生活できる家にしたかった。家を建てるにあたり住宅メーカーを巡ったけれどどれもピンとこないという時、同じ地に区目を引く家が気になり、そこを作ったのが彩さんだとわかりました。お話を聞く中で、安心して住める家づくりという考え方にも共感ができ、彩さんをお願いしたいと思いました。仕上げがすべて自然素材なので、小さい子供にも安心であり、歩いたり触った時の感触が心地良い。子供や孫の世代になっても長く住んでいける家として、経年変化して素材の味わいが出てくるという点も住む楽しみになると感じました」(Aさん)

住宅の断熱性能はパッシブデザインの家づくりにおいて重要なポイントとなる。気候の変動により夏の平均気温が上昇している今、特に西日本においては寒さだけでなく、暑さをどれだけ防げるかが

重要なカギとなる。A邸には高い熱容量と低い熱伝導率によって室内のエネルギー効率を高めることができるドイツ製木繊維断熱材 STEICO flexが採用された。株式会社 彩の代表・大坪宏記さんは「パッシブに対応する素材は性能が重要であり、一方でデザインのバリエーションが豊富なわけではありませんが、シンプルなかにも住む人のライフスタイルや好みを反映したオリジナリティを表現することは常に考慮しています」とも語る。その言葉通り、エネルギーの効率化を実現する機能的な素材を内外装に多用しながらも、デザイン性の高い大きなエントランスのある外観は、近所でも評判となっている。また、内装に用いられている「スイスウォール カルクファサード サハラ」は、“呼吸”をして室内環境を整える機能性と共に、シンプルながらも漆喰特有の光を優しく受け止めるような質感、土の色に近い色合いが木の内装仕上げとマッチし、落ち着いた雰囲気を生み出している。



木材を多く使った家にしたいという要望を形にしたB邸。レッドシダーを天井に、オークを床材に用いた他、「スイス漆喰 カルクウォール」や紙クロス「オガファーザー」など心地良い触り心地のある空間となっている。



家づくり技術を支えるクラフトマンシップ

同じくこの春に完成し2カ月を経たB邸は、夫婦とお子さんの3人が住まう2階建て、延べ約39坪の住宅。木を多く使った空間や薪ストーブのあるリビング、趣味のアウトドアに合わせたウッドデッキ、菜園など、いくつかの要望を受け、実現可能な間取りや機能に落とし込んでいったという。施主のBさんは「住宅展示場ではじっくりくる会社が見つけれなかったところ、彩さんで家を建てた職場の知り合いに、木に囲まれた空間を実現できそうな会社として紹介してもらいました」と話す。

エアコンが苦手なBさん夫婦のため、空気の入替えや温度の調整がしやすい間取りや建具を選定し、さらにプロの目線でのアドバイスによって住みやすい空間が立ち上がっていった。

「憧れやイメージで、例えば『パントリールームがほしい』という意見を投げると、パントリーを設けなくともキッチンスペースの機能

で事足りるから大丈夫と教えてもらえたり、また玄関に近いトイレの手洗いを、中ではなく外に設置すると来客も使えると提案してくれたりと、より快適な空間に導いていってくれる安心感がありました。住み始めてみると風通しの良さもありながら、空調を使う時にはしっかりと断熱されていて常に心地良い空気が流れています。裸足で歩くと木の質感が気持ち良く、またリビングから庭に訪れる鳥を眺めるなど、身も心もくつろいで過ごせる家になったと思います」とBさん。

彩のスタッフはほぼ職人で構成されており、大坪社長ご自身も現場に出る。その現場での長年の経験と技術、高効率な住宅づくりの知識に裏付けられたフォローが施主との信頼関係を生み、人づてに次のプロジェクトへとつながっている。





C邸はリビングとダイニング、和室の隣接する3つのスペースが開口部を持ち、一部が吹き抜けとなった開放的で明るい空間。内装には快適な空気づくりに寄与する「スイス漆喰 カルクウォール」や紙クロス「オガファーザー」などが用いられている。



人への安全性を最も重視した家づくりと ストレスフリーを形にする設計力

Cさんは、吹き抜けと薪ストーブ、そして庭のある家を求めている中、Facebookで彩にたどり着き、コンタクトをとった。その際紹介された、彩が定期的に行っている住宅見学会に参加し、そこで漆喰や木を多用した住空間を体験し依頼を決めた。

「薪ストーブへの憧れはあるけれど、実際に設置した時の不安もありました。しかし、メンテナンスの方法や良さを教えてもらうなど、よりポジティブに家づくりに向き合えたと思います」とCさん。

彩では「家を建てる」という大きな決断をしっかりとサポートする情報提供に重点を置いている。「写真や見学会などでしっかりと住まいのイメージしていただく他、自然素材の成分や環境に対するメリット、メンテナンスにおけるデメリットなどをお伝えするようにしています。また、職人としての経験やデータを通し、素材を厳選して、常に住空間の性能向上に努めており、お施主様に協力いただき、引き渡し後の住まいの快適性やエネルギー効率といった情報を収集し、データとして提示できる資料を蓄積しています」という。

昨年11月に完成した2階建て、延べ約36坪のCさん邸には、1階の南側の開口部にウッドデッキが広がり、リビングやダイニング、畳敷きの和



室が隣接する。「住み始めて半年ですが、家に帰ってきた時の空気が心地良くて、リビングだけでなくトイレを始めとする水回りでもおいが気にならず、漆喰の持

つ空気を調整する効果を感じます。木の床もベタつかないし、子供に木の心地良さを感じながら過ごしてほしかったので嬉しいですね。以前に住んでいた家と比べて、早く家に帰りたい、ずっとここで過ごしたいという気持ちになっています。

施主にとって幸せな住宅、安心と品質を確保したクオリティの高い住宅づくりを実現するためには、作り手がしっかりとしたビジョンを持ち、

施主に「こんな家に住みたい」「この会社に家をつくってほしい」と思わせる情報を伝えていくこと、そして、それを形にするノウハウや素材の追求を続けることが必要なのだろう。



株式会社 彩

大坪宏記さんに聞く、 今求められている家づくり

福岡県南部を拠点に、自然素材を用いながら高性能の工法を取り入れ、安全かつ快適性の高い住宅を提供している「株式会社 彩」。代表の大坪宏記さんに、同社が目指す住宅づくりについて話を聞いた。

「6年前、世界の中でも日本の住宅品質は高いと思っていた…。しかし、パッシブデザインや環境先進国の家づくりに触れ、その考えは見事に吹っ飛びました！」



環境先進国の視察が ターニングポイントとなる

そして、約6年前、日本においてパッシブデザインを推進するパイオニアの一人である建築家の野池政宏氏に学び、また海外視察で訪れた北欧での体験が大坪さんの住宅建築に対する意識を大きく変えた。このことが彩の大きなターニングポイントとなった。同社代表の大坪宏記さんは、パッシブデザインに注力し始めた経緯について次のように語る。

「自然素材の住宅に取り組んできたなかで、より機械依存しない住宅づくりを目指し、パッシブデザインを学び始めました。それまで、日本の住宅の断熱性や建材のレベルは、世界の中でも高いほうだと考えていたのですが、環境先進国のデンマークやスウェーデンの実例を体験すると、かなり遅れをとっていることに愕然としました」それをきっかけに、本格的にパッシブデザインに取り組み始めた。

住む喜びを感じる施主ファーストの住宅 それを実現する企業の意識とノウハウ

断熱や空調、安全性が確保された高性能の住宅は、ライフスタイルが見直されている今の世の中において、多くの住み手や作り手が注目している存在だ。しかし、施主がいざ形にしようとすると様々な壁が立ち上がる。安全や快適という曖昧なイメージを具現化する設計者や施工業者と出会えるかがまずポイントであり、一方、作り手にとっては施主からの要望を機能性やコストと折り合いをつけて形にしていく知識、技術、コミュニケーションの力が試される。

「彩」は、「Natural Comfort」をテーマに「自然で、落ち着く癒しの空間」のある住宅を提供している設計施工会社だ。同社は、創業から約80年の歴史を持つ建設会社が母体となり設立され、手刻みによる木造軸組み工法を用いるなど、日本古来の高度な技術を有する職人による自然素材にこだわった家づくりを長く続けてきた。



クラフトマンシップと パッシブデザインの融合

日本の住宅の実情、素材やパッシブデザインの知識を取り込みながら、設計者であり大工でもある職人の目線で、日本の環境に合わせた住宅づくりを積極的に推し進めてきたという。木材の樹種や仕上げ材の選定にも注力し、同社設計施工の住宅で用いられている素材の約9割は自社工場加工されている。



「これまで建てた住宅でデータを取らせていただき、素材の経年変化や空間に与える効果についてのノウハウを蓄積しています。それらを元にしなが、新しい素材の情報収集も行い、常に快適かつ性能の高い住宅づくりに必要な手法を追求している」と話す大坪さん。断熱性能を突き詰め、部屋やフロアごとの寒暖差を無くすことで、肌で住み心地を体感し、それが

施主の高い評価につながっている。彩の変革、熱い思いは施主にも伝わり、更に新しい施主へと伝播していく。以前は年間2棟程度であったプロジェクトも、今は大手ハウスメーカーと競合するにも関わらず坪70~80万で年間12棟まで拡大。現在1年待ち状態だ。

住めみ続ければ

差を実感できる素材選び

これらパッシブデザインや高い環境性能が求められるプロジェクトを支えている一つの要素が、イケアコーポレーションの自然素材である。例えば、P.2のA邸では、ドイツで開発された新しい木繊維断熱材「シュタイコ」を採用。高い熱容量と低い熱伝導率を持つ同製品の性能に期待を寄せる。

「今の日本で一般的に扱われている断熱材は寒さに対する性能を重視していますが、環境先進国のドイツでは次のステップに進んでいます。シュタイコは夏の暑さや湿度を防ぎ、室内環境を整えるのが特徴です。当社では試験的な導入を経て、現在は標準採用として取り入れています。こういった機能的でかつ高い環境性能を持った製品は積極的に取り入れていきたい。工法や成分など目に見えないものを、施主に言葉で伝えるのはむずかしい部分ではありますが、住み続けるうちに、必ず実感するような差が生まれます」。

彩では、住み始めてから温室のデータを報告してくれるようになどなど、住宅のエネルギー問題を意識するようになった施主もいるという。



手掛けた物件がフラッグシップに

今回の彩の事例において、施主と設計との交差点は、他ならぬ手掛けた物件である。施主は「パッシブデザイン」という単語すら知らなくても、そこで暮らせば問答無用で住み心地の良さを体感し、「体感」は語る言葉を越え、揺るぎないものとして施主の体に根付く。それをうみ出すために、大坪社長は日々パッシブデザインへの飽くなき追求と研鑽を重ねる。またそれは、同社の根底に流れるクラフトマンシップや、施主に寄り添う設計力、家づくりへの情熱、それらすべてを形にする職人がいるからこそできることである。

手掛けた住宅がフラッグシップとなり、地域に眠っている次の施主を呼び起こし、また新たなサイクルを生み出す。本物を作れば、人は動く。本当にいいものに出会った時、人は誰かに伝えたいものとなるのである。その幸せな輪が広がっていく可能性を、彩の事例が示している。





横島 康



細部安嗣



佐藤欣裕



赤堀楠雄

オンラインBIGセミナー2020 地域を拓く設計術



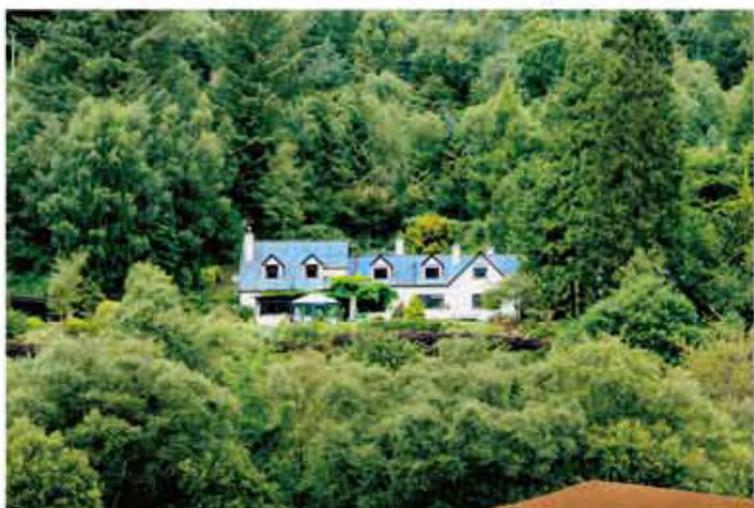
YouTubeで配信中!

ご視聴は無料です。

詳しくは弊社HPでご確認ください。

オンラインビッグセミナー

新型コロナウイルスの影響で中止となったビッグセミナーですが、動画配信という形で公開することになりました。世の中がシフトしていく今だからこそ、トップランナーたちの声を多くの方にお聞きいただきたいと思っております。ぜひご覧ください。



STEICO
engineered by nature

資料
請求

夏の断熱に強いドイツ製木繊維断熱材
『STEICO(シュタイコ)』 資料請求受付中!

P.3でご採用いただきましたSTEICOの資料請求を承っております。夏の断熱に強く、冬の寒さだけでなく夏の外からの熱を防ぎ、木繊維の透湿性で蒸し暑い夏の室内環境を改善します。もちろん環境性能も抜群。ぜひお問い合わせください。

シュタイコ



掲載雑誌紹介



Come home! vol.61
(主婦と生活社)

発売中

change my Lifestyle

今回の特集は「change my Lifestyle」。生活を見直すチャンスを活かし、おうちを快適に整えたり、DIYリノベや、おやつレシピなどもりださん。弊社協力ページ「木と漆喰で建てた家」では、アズ・コンストラクション様をご紹介します。6年お住まいいただいた中で実感されたことなどをお話しいただきました。ぜひ一読ください。

**ikecoのバックナンバーが
WEBでご覧いただけるようになりました!**

自然素材を取り扱うお客様の事例や、これまでの当社の取り組みをご紹介します。
※一部掲載なし

ikecoバックナンバー



この情報誌に関するお問い合わせ
資料・サンプル請求は

株式会社
Ikeeda CORPORATION **イケダコーポレーション**

0120-544-453

仙台・東京・名古屋・大阪・福岡

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4丁目8-28 FJビル3F
TEL.06-6452-9377 FAX.06-6452-9378

〒104-0045 東京都中央区築地7丁目10-2 築地小川ビル4F
TEL.03-3544-4453 FAX.03-3544-4450

<https://www.iskcorp.com>
E-mail info@iskcorp.com

